

Editor: Tom Toriyama, 6-14-11-205, Ohzenji-nishi, Asao-ku, Kawasaki, 215-0017 Tel 044-577-5231

## New Year Dance 2023



1月14日(土)午後、赤羽会館でNew Year Dance 2023を開催しました。常時6セットと例年の半数の参加者でしたが、3年ぶりの再会を喜び合いました。カナダのホーン喜美子さんから直送されたメープル・クリーム・クッキーの差し入れもあり、大勢でつどい楽しかった、というみなさんの感想です。(p.5にも写真あり)

### ブランチ・クラス

#### ビギナーズ・クラス

千代田区立スポーツセンター多目的室

3月7日(火) 1:30-4:00 講師 渋谷明美

お問合せ: 担当 渋谷明美 047-351-8581

#### ソーシャル・クラス

千代田区立スポーツセンター多目的室

3月14日(火) 1:30-4:00 講師 富谷佐千子

お問合せ: 担当 寺久保ヒロ子 03-3801-6139

#### ブランチ・クラス

千代田区立スポーツセンター多目的室

4月15日(土) 1:30-4:00 講師 辰巳由利子

お問合せ: 担当 渋谷明美 047-351-8581

or 寺久保ヒロ子 03-3801-6139

ビギナーズ、ソーシャル・クラスとも参加者が減少しており、とくにビギナーズ・クラスは1セットできるかどうかの状態が続いています。ビギナーズとソーシャルを1つにまとめ、4月から月1回のブランチ・クラスとして行うことにしました。みなさま大勢のご参加を期待しています。

### 2023 年度会員登録のお願い

2023 年度会員登録の時期となりました。本年度のRSCDS 会費は¥4,400、東京ブランチ会費は昨年度と同額です。くわしくは同封の「会員登録更新のお願い」によりますが、概略下表のとおりです。

なお、事務処理簡略化のため、会費は従来の郵便振替でなく、ゆうちょ銀行通常貯金口座にご送金ください。

締切り: 3月末日

	東京ブランチから本部登録	他ブランチから本部登録
ブランチ出版物を紙版で受取る	¥6,900	¥2,500
ブランチ出版物をメールで受取る	¥6,100	¥1,700

### アンケートご回答

ブランチ解散についてみなさんのご意見をお伺いしたく、アンケートを同封しました。どうかご遠慮なくご回答をお寄せください。

## RSCDS 100 周年記念ダンス

—RSCDS 100th Anniversary Dance—

9月30日(土) 1:00-4:30

日暮里サニーホール(日暮里駅南改札口3分)  
大森ヒデノリ(フィドル)・小海弘子(ピアノ)

RSCDS 100年を記念し、この日、24 hours dancing around the world「世界中で24時間のダンシング」として全世界でダンス会が行われます。日本では3ブランチ合同(主管は東京ブランチ)で開催します。ブランチレター#118で述べた中核の10ダンスに、日本3ブランチが選んだ6ダンスを加えて行います。

### 中核10ダンス

Flowers of Edinburgh	R32	Book 1
Rakes of Glasgow	S32	Book 11
Ladies' Fancy	J32	Book 13
None so Pretty	R40	Book 19
Neidpath Castle	S32	Book 22
The Old Man of Storr	R32	Children
Gothenburg's Welcome	J32	Book 37
Anna Holden's Strathspey	S32	Book 42
Scott Meikle	R32	Book 46
Farewell to Balfour Road	J96	Book 52

### 各ブランチ選定ダンス

Elspeth Gray's Reel (東京)	R32	Book 53
Hana Strathspey (東京)	S32	Tokyo 25th
Pelorus Jack (埼玉)	J32	Book 41
Shifftin' Bobbins (埼玉)	R32	30 Pop #2
Triple Happiness (東海)	S32	Book 52
Ian Powrie's Farewell to Auchterarder (東海)	J128	30 Pop #2

## 運営委員会報告

### 2023.1.14 (赤羽会館集会所)

- ・12/15、在日英国大使館内のスコットランド国際開発庁から、1/30夜に大使公邸で英国の大学を卒業した日本人の同窓会があり、そこでケイリ・ダンスを指導してほしいと依頼された。ブランチは快諾し準備を進めたが、その後同庁からさらに検討するため依頼は保留してほしいとの連絡。→大使館員が指導することになり、バンドも準備したので東京ブランチによる指導・演奏は不要になった。
- ・自分はビギナーでないと思う人が多くなり「ビギナーズ」の名称を変えたらという提案があるが、参加者減少はクラスの曜日が決まっていないからではないか。現状では希望の日時を取るのには困難。クラスを1つにして、「ブランチ・クラス」とする。
- ・クラス担当講師アンケートの結果は、66人の資格所有者中、日時が合えば協力可の回答があったのは10人。

- ・2/4の3ブランチ会議で、本部会費額はわがブランチとしては£=¥170として¥4,400を提案する。
- ・会費払込先は事務処理簡略化のため、ゆうちょ銀行通常貯金口座に変更する。
- ・ミラノのグループから、観光を兼ねて2023年後半以降に日本に行きたいが、ことに京都でSCD行事があれば教えてほしいとの問い合わせあり。日本の現状を回答した。

### 2023.2.3 (港区生涯学習センター)

- ・New Year Dance 2023、生演奏不可が会場予約後に分かったのは痛かった。来年は生演奏可の場所とした。14ダンスは少なかったが、参加者の多くから楽しかった、ドレスが着られて嬉しかった、早く終わってよかった、の感想あり。
- ・会員からのブランチ賞候補者推薦はなく、委員会推薦で小杉セクレタリをブランチ賞受賞者に推薦する。
- ・会員にブランチ解散についてのアンケートを求める。
- ・3ブランチ連絡会で他のブランチにも解散について現況を報告する。日本における今後の試験実施の仕組みは、主管ブランチを決め、他のブランチはそれに協力する形を提案する。
- ・引継ぎ後半年を経過したので、ブランチ手持ちの金額、ショップ収益金額を確認した。

## クラスで踊られたダンス

### ビギナーズ・クラス

1月10日 佐々木春子

Collichur	32J	Book 30.
Happy Returns	32R	MMM
Dragonflies	32S	Lataille
Pudsey Bear	32J	Macdougall

2月7日 トム鳥山

Seann Truibhas Willichan	32S	Book 27
Emmett's Chase	32J	Brenchley
Station X	32R	Drewry

### ソーシャル・クラス

12月13日 寺久保ヒロ子

The Mayflower	32R	Kent
The Scallywag	40J	Book 52
A Toast to Aberdeen	32S	Watson
Falls of Feugh	32R	Watt
Well Kent	32S	Goldring
Welcome to Nerja	48J	MacKenzie

1月24日 長峯真弓

Born to Dance	32J	Collin
Celebration Strathspey	32S	Book 43
Tam o' Shanter	48R	Priddey
City of Wisteria	32S	Marshall

## Scottish Dance での3拍子について 及びそのほか 小幡 正明

現代では3拍子といえば多分 Waltz のリズムがまず思い浮かぶと思われ、SCD バンドの録音でも Scottish Waltz とか Gaelic Waltz とかの心地良いメロディーがたくさん聴かれます。その「心地良いメロディー」も人によって好みが異なるのが当然ですが、それでは Waltz も含んだ3拍子でどんな Scottish Country Dance を踊ることができるでしょうか。



Waltz が Country Dance に伝わって広まったのは18世紀末頃からで、それまでの3拍子は主に3/2、3/4、9/8拍子の音楽で踊られていました（おそらくは Scotland でも）。

RSCDS の Book (MacNab Book は除いて)で3拍子系のダンスを探すと4つしかありません。9/8 Jig の Strip the Willow (Book 1)、3/4 Waltz の Waltz Country Dance (Book 4)、3/4 Minuet の Yellow-Haired Laddie (Book 12) と Tweedside (Book 19) です。

3拍子はしばらくおいて、20世紀になって、SCDS が設立される頃には既にあつた ISTD (Imperial society of Teachers of Dancing) や、各地でダンスを収集していた Scottish Country Dance Club での出版物を見てもステップの標準化はされておらず、いろいろな似ているステップが使われていたようで、Manual の Suggested Further Reading にある Flett, J. F. & T. M. / Traditional Dancing in Scotland にいくつも説明されています。

Society に 'Royal' を戴いた1951年に Miss Milligan が 'Won' t you join the dance' としてマニュアルを出版し、その後版を重ねて現在では RSCDS による 'The Manual of Scottish Country Dancing' になり Technique の標準化が進みました。この間、ISTD 関連でも 'The Technique of Scottish Country Dancing' が出ていますが、'Royal' の威光のため(かな?)その後 ISTD から Scottish Dance Branch がなくなってしまいました。その他、Teacher 向けに独自の Handbook を出しているケースもありますが、どのマニュアルにも、ステップとしては2拍子系に対応して、Quick Time には Skip Change of Step、Pas de Basque と Slip Step が、Strathspey Time には Travelling Step と Setting Step が詳しく説明されています。

一方、Waltz などの3拍子系や Running は foot position の詳しい説明もない「オマケ」或いは「お荷物」の扱いです。ダンスの数を考えれば当然かもしれません。

このように、現代の Scottish Country Dance 界では上記のように2拍子系のステップ以外は疎外されているだけでなく、2拍子系でもしばらく前に Rob Sargent が提案した、ゆっくりした Hornpipe も、どのステップを使うのか(私には)わからないままですが、その後進展があつた様には思えません。ローカルには踊られているものなのか、状況を知りたいものです。

現在ある2拍子系のステップ以外が採用される余地はないのでしょうか。

こんな例もあります。Book 16 に載っている Woo' d and Married an' a' (Jig) は、Manual の Suggested Further Reading の Emerson, G. S. / Scotland Through Her Country Dances にあるように「元々この Tune は9/8の Jig だったが、このリズムは今日の Scottish Country Dance では使われない。その様な訳でこのダンスは6/8 Jig にセットされている。」

6/8 に編曲してまで紹介する面白さのあるダンスかどうかは評価の分かれるところでしょうが、元々の曲を付け替えることは結構あるようで、Book 21 にある Strathspey の My only Jo and Dearie, O は同じタイトルの Reel のダンスでしたが、Miss Jean Stewart という Strathspey の曲に替えられていて、それに伴ってか踊り方にも手が加えられています。この話題も上記の Scotland Through Her Country Dances に載っています。何故かは明示されていません。

話が飛びますが、Leaflet Dance 19 の The Jubilee Jig の曲 ‘Miss Gordon of Liverpool’ は William Marshall の 9/8 の曲を 6/8 に編曲したものです。わざわざ編曲しなくても別の曲を選べば良かったのではないかと、何か秘密が隠されているのかな（誰かの旧姓が Miss Gordon で Liverpool 出身だったとか） と思ったりもします。

さて Manual での 3 拍子系です。9/8 Jig には Running Step が指定されていますが、Running step は 9/8 Jig だけでなく 2 拍子系の 6/8 Jig でも Strip the Willow、Haymakers、Foula Reel で指定されていて、その説明は foot position などありませんが、いかにも常識的で疑問のないもつともな説明に思えます。

それに対して Waltz では Manual の Notes for dances の Waltz Country Dance の ところで「A slow pas de basque is used in this dance」とあり、Book 4 中の説明「4 拍目のない pas de basque」、「skip のない change of step」から変わっていて、Setting はともかく travelling は（私には）しっくりきません。

残りの 2 つは Minuet の曲で、Manual には言及がなく、Book に「A slow pas de basques used throughout …」とあり、大雑把に言うと「ステップ・ステップ・クロウズを繰り返す」ように読めます。これを pas de basque と呼んで良いのか分かりませんが、この際 2 つのダンスのためだけに Minuet step を使っても良いのではないかと思ったりします。美しい音楽ともマッチして、よりエレガントに感じるのではないのでしょうか。RSCDS の foot position は Historical Dance などとも親和性があり、(あまり厳密に考えずに) step を一つ加えるのも難しくなさそうですが、Manual ではその性質上厳密に考える必要がありそうで、やはり無理ですかね。

結局現代の Scottish Dance でどうしても 3 拍子のダンスをもっと楽しみたいと思ったら Country Dance ではなく Ceilidh Dance で St. Bernard Waltz や Pride of Erin Waltz や Southern Rose Waltz などを、厳密な step を気にしないで選ぶしかないのかな、(あるいは人によっては 3 拍子系の Step Dance とか) と思いますが、反対に、3 拍子にこだわらなくても楽しいダンスがたくさんあるので気にしない、考えたこともない、との声も聞こえそうです。

関連した話をもう一つ。Scottish Country Dancer No.32 の 22 ページに紹介がありますが、John W. Mitchell は多くのオリジナルダンスを Whetherly Books として出しました。彼がその No. 24 で、主に 18 世紀までの London で出版された Country Dance Collection から 125 のダンスを再構成しています(当然 English Country Dance として紹介されているものが多い)。

選択の基準は分かりませんが、ダンスの説明は現代の Scottish Country Dance Technique に沿った解釈に(と ことわった上で) 変えたりしています。その中には Reel、Jig、Strathspey を始め 3/2 の Hornpipe、Minuet、March、Waltz、Waltz ではない 3/4、6/4、12/8、9/4 が含まれているようですが、ステップに関するヒントは残念ながら提示されていません。(March だけには「it should be walked through」とありますが、walk の説明はありません。)

Scottish Country Dancer No.32 にもあるように、Whetherly Books その他の Collection も

[www.scd-germany.de/en/scottish-dancing-in-germany/publications](http://www.scd-germany.de/en/scottish-dancing-in-germany/publications) から、現在のところ Book 1-10 と 24 の PDF がフリーでダウンロードできます。ディジタルに際して各ダンスを 1 ページに収める様にしたり、「Note」を加えて説明を増やしたりして印刷物より改善されています。1-4 はダイアグラムも載っていて、興味のある方にお勧めいたします。よく見る tune title に合わせたダンスをたくさん作っていて、「なんだかなー」とも思いますが、対応した音楽を各自で探して楽しんでみるのはいかがでしょうか。続いて Books 11 以降や、それ以前に出している Whetherly Sheets のダンスのディジタルも待たれます。

注：Book その他の文献の版は最新版ではありませんので、文中の表現と最新版とは異なるところがあるかもしれません。ご了承ください。



## New Year Dance 2023 (つづき)



MC の高橋元乃さん・有田典和さん



Balmoral Strathspey



New Year Jig



12 Coates Crescent



CD 操作係の 2 人

## The Forth Bridge Jig – RSCDS Book 40

### The Forth Bridge Jig

スコットランドの象徴的なイメージといえば、フォース湾の狭い場所を横切る、赤いカンチレバー（片持ち梁）構造のフォース・ブリッジが最上位のすぐ近くにくる。したがって、この橋を称えた少なくとも3つのダンスが作られているのは当然のことである。The Forth Bridge Jig（ヘザー・ノックス作、RSCDS 40）、そしてThe Forth Bridge という同名の2つのダンス（ジョン・ミッチェル作 Whetherly Book 5、およびジョイス・ストーン作 RSCDS Imperial 1-3）である。The Forth Bridge Jig のフォーメーションには、3つのスパン（径間）の構造が描写されており、フレッド・アーバックルによる同名の曲は、エジンバラとファイフを隔てる海上を通過する蒸気機関車のイメージを思い起こさせる。湾の横断交通史と橋そのものについて述べたい。

### フォース湾の横断

さかのぼること一千年、カンモア家のスコットランド王マルカム3世は、アルフレッド王の血を引くマーガレットと結婚した。マーガレット王妃（1046? – 1093。宇治平等院の完成期）は、まず自分のため、のち人々のためにフォース湾を横切ってセント・アンドルーズおよびダンファームリンの大聖堂に通じるフェリー・サービスを創設した。横断地点の両方でこの渡し船商売に対応するために出現した港の村は、いうまでもなく、ノースとサウスのクイーンズフェリーである。19世紀初頭には両岸に栈橋が作られ、潮の干満にかかわらず定期的にフェリーが横断できるようになった。

工業化が進むイギリスでは19世紀半ばに鉄道が普及し、人と物の途切れることのない流通を可能にする橋が必要とされた。河口部の激変する天候のため、既存の列車→フェリー→列車の接続は乗客にとって不快であり、貨物は両岸で積み込み・積み降ろしの時間がかかり、扱いにくいものであった。トマス・バウチが考案した世界で最初のロールオン／オフ（列車が自力で乗船下船する）フェリー・サービスがグラントンおよびバートアイランド間に開設され（貨車のみ）、積み込み・積み降ろしの必要性がなくなり成功した。だが、まだ天候のなすがままであった。間違いなく橋が必要であった。



Trains on the Ferry at Granton

### グラントンにおけるフェリー上の列車

#### スタートを間違えた？

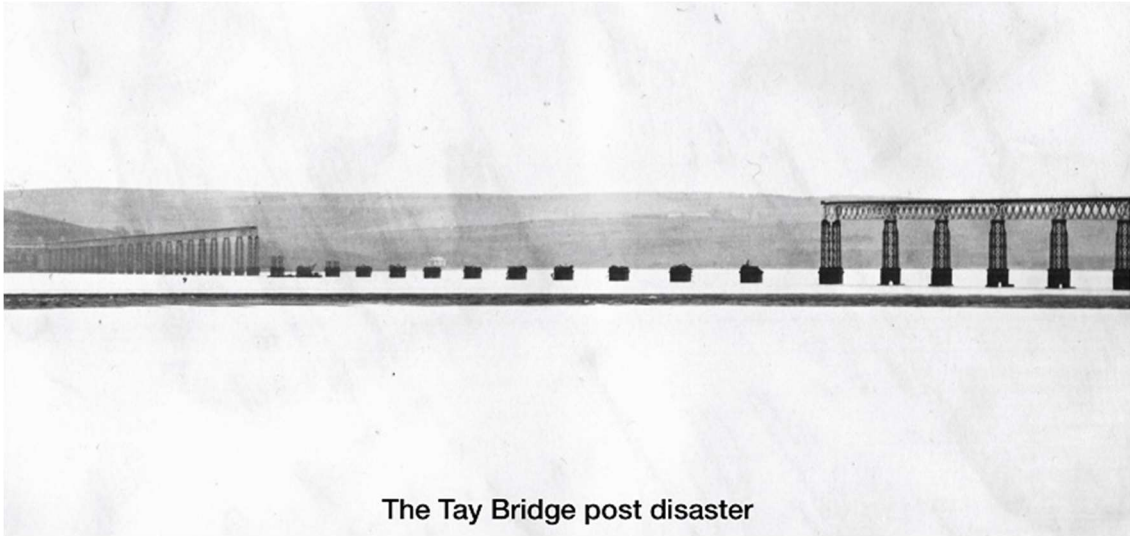
トマス・バウチの名になじみがあるように思えるのは、彼の橋とのつながりが彼の独創的な列車のフェリーで終わっていないためである。カーライル近郊のサーズビーで生まれたトマス・バウチはエジンバラに住み、鉄道工学で高い評価を得ていた。彼はさまざまな都市で路面電車の計画を立て、ティン川にまたがるレッドヒューフ高架橋を設計し、4つの異なる会社が所有する4つの連絡線を考案して、西カンブリアの鉱山をつないだ。彼は、慎重に運用すれば投下資本を上回る利益があがる支線を設計する人として知られていた。

スコットランドの主要な鉄道ルート of 優位性は、どの会社が橋を架けられるかにかかっていた（当時の鉄道はすべて民



営)。ノース・ブリティッシュ鉄道会社はテイ川に架かるテイ・ブリッジの設計をバウチに依頼した。ノース・ブリティッシュ鉄道とエジンバラ&グラスゴー鉄道連合は、最初他の設計者を選んだが、最終的にバウチと契約した。

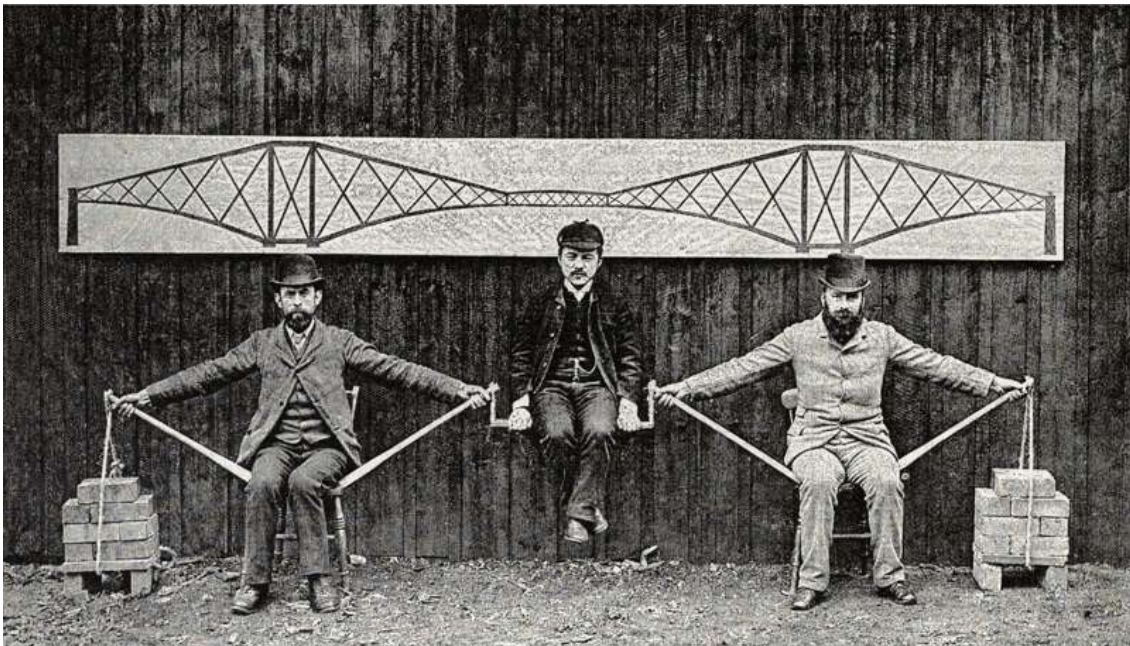
1871年の起工から2年もたたないうちに、橋脚を支える岩盤は当初考えられていたよりもはるかに深く、バウチは計画を修正せざるを得ないことがわかった。しかしながら橋は最終的に1878年5月31日に開通し、翌日から乗客を乗せ、バウチは翌年テイ・ブリッジ建設の功労者としてビクトリア女王からナイト爵位を授けられた。しかし、1879年12月28日の夜、猛烈な嵐の中で横風により中央部の13基の橋桁が崩落し、惨事が起こった。そのとき75人の乗客と乗務員を乗せた列車が橋を通過中で、全員がテイ川に転落し、死亡した。その後新しい鉄道橋がテイ川に架けられたが、その運命の日を永遠に残すために、バウチの元の橋の土台は今日も残っている。テイ・ブリッジ事故の調査は、強風に対する設計不良、鋳鉄製の橋桁、粗雑な建設、いかげんな保守が崩壊の原因であると結論づけた。バウチへの信頼が薄れ、1873年に彼がフォース湾に架かる鋼製吊り橋で始めた計画は中止された。



The Tay Bridge post disaster  
大惨事後のテイ・ブリッジ - 中央部が欠落している

### フォース・ブリッジ

ときに、災害は損失と同じく、予想外の利益をもたらす。テイ・ブリッジの崩壊はすぐにトマス・バウチとのフォース湾横断契約の撤回をもたらした。フォース・ブリッジの他の設計が印象的であったことは間違いないが、いまのブリッジの象徴的な状況と一致することはまずない。橋というだけではなく、力強さと永続性を示す主張（意図的に過剰に設計された）なのである。



Demonstration of the cantilever principle by the bridge Designers

設計事務所による片持ち梁の原理のデモ

1881年、ジョン・ファウラー&ベンジャミン・ベイカー設計事務所は、それぞれが独立した花崗岩の土台にある3つの4脚塔からなる片持ち梁構造の橋の設計をフォース・ブリッジ会社に提出した。片持ち梁の原理は、橋の建設で昔から使われてきた。剛性のある構造要素が一方の端に固定され、もう一方の端で中央セクションを支持するというものである。ファウラー&ベイカー設計事務所は、1887年の有名な写真で、日本人エンジニアの渡辺嘉一を支える片持ち梁の原理をデモンストレートした。当然のことながらライバルの鉄道会社からの反対があったが、橋の設計は1882年に議会によって承認され、1883年に工事が始まった。



Forth Bridge under construction, c1888

建設中のフォース・ブリッジ。1888年と思われる。

各塔の基部は4本の土台で支えられている。基礎を構築するために、ケーソンと呼ばれる巨大円筒構造物から水を汲み上げ、水面下で作業を行うことができた。岩盤が水面近くにあり、干潮時に露出する場所では同様のコンセプトである防水仕切りが使用された。それぞれの基礎は場所によって異なるが、各上部には先細の円形の土台があり、その上に橋の主要鉄鋼構造物が置かれている。当時、粗鋼から安価に大量の鋼鉄を製造できる最新のベッセマー製鋼法が発明され、橋は、53,000トンの鋼鉄で完成した。橋の建設は非常に迅速で、1886年に土台基盤が完成した後、各塔は1887年に完成し、片持ち梁構造の完成はその2年後であった。この斬新で複雑な橋の成功とスピーディな完成の理由の1つは、建設の請負会社に指定されたウィリアム・アロール社の決意と熟練にあった。フォース・ブリッジの建設と同時に、アロール社はテイ・ブリッジ代替橋の架橋にもかかわった。これら2つの契約の完了により、ウィリアム・アロールは国際的な名声を獲得し、ナイトの爵位を授与された。彼は後にロンドンのタワー・ブリッジのすべての鉄鋼構造部建設の請負業者になった。

橋とその接続線は、1890年3月4日に、英国皇太子が最後の「黄金」のリベットを打ち込み、開通した。(明治23年。前年に新橋-神戸間の東海道本線が全通した。エッフェル塔完成も1889年)。

橋への2つの接続線は、同時に土木技術者ジェームズ・カーズウェルによって建設された。接続線の路盤は、地面から見たときに上部で拡大するような錯覚を防ぐため、先細になっている。南の接続線の下には、ロバート・ルイス・ステューブソンが彼の本「さらわれて」のアイデアを思いついたホーズ・インがある。彼は、その小説で誘拐犯がいた場所としてホーズ・インを設定している。

橋は2015年にユネスコの世界遺産に指定された。紙幣に描かれ、コンピュータ・ゲーム、無数の広告キャンペーンで取り上げられている。650万本のリベットは工学的な成果の実例であり、24万リットルのフォース・ブリッジ・レッドのペイントで塗装し直すのは終わりのない作業であったが、塗装技術の進歩は、もはやこれを不要としたことを意味する。このつぎ、みなさんがサマースクールに行くためエジンバラ空港に空路で入るとき、あるいは東海岸回りの列車で向かうとき、この象徴的な建築物をよく見て、フェリーに乗らずに済むことへの感謝を忘れないでいただきたい。

本稿はいつものピーター・ナップマンではなく、エジンバラのアンドルー・ノーランが執筆した。





サウス・クイーンズフェリーからのフォース・ブリッジ。  
向こうにロード・ブリッジとクイーンズフェリー・クロッシングが見える。

	<u>フォース・ブリッジ</u>	<u>フォース・ ロード・ブリッジ</u>	<u>クイーンズフェリー・ クロッシング</u>	<u>明石海峡大橋</u>
完 成	1890 年	1964 年	2017 年	1998 年
形 式	連続片持ち梁橋	吊り橋	連続斜張橋	吊り橋
全 長	2.5 km	2.5 km	2.7 km	3.9 km
最 長 ス パ ン (主塔間距離)	521 m	1,006 m	650 m	1,991 m
主 塔 高 さ (水面から)	110 m	156 m	207 m	298 m
桁 下 高 さ (水面から桁底)	46 m	44 m		65 m
交 通 量	200 列車/日	65,000 台/日		38,000 台/日
開 通 式 臨 席 者	皇太子	女王	女王	皇太子
工 事 殉 職 者	57 人	7 人	なし	なし

〔片持ち梁の原理はギリシャ・ローマ時代から知られており、実用化に到らなかったのは剛性のある材料（低炭素鋼／鋼鉄）が安く大量に得られなかったためである。フォース・ブリッジのアイデア・設計に日本人技師、渡辺嘉一氏が関わったといわれているが、橋の設計は1881年に終わっており、氏がグラスゴー大学を卒業してファウラー&ベイカー設計事務所に入社したのは1886年、そのころには橋の工事はだいぶ進んでいた。氏は橋の完成を待たず、1888年に帰国している。デモ写真はたまたま体重の軽い、毛色の変った東洋人をモデルに選んだだけ、階級差別・人種差別があたりまえだった時代であり、氏の仕事は事務所と現場の連絡係程度ではなかったか。トム鳥山〕。

## スコットランドの歴史で、この日は Dance Scottish at Home, Issue 32, 12/3/2021

今週の DSAH は象徴的なフィドラーの誕生を祝い、そして 1952 年に立ち戻り、スコットランドでテレビ放送が始まったことを記す。



1727 年 3 月 22 日 (享保 12 年。平賀源内は翌年の生まれ)

スコットランド音楽の演奏家、作曲家そして収集家として著名なニール・ガウがパースシャーのストラズブランで生まれた。

ニールの息子、ナサニエルもエジンバラの音楽出版者としてスコットランドの伝統音楽に大きな影響を与えた。アセンブリー・ルームで催されるボールのためよく知られたバンドを有し、父が収集した音楽を整理し、自身の作曲集を出版し、4巻にのぼるスコティッシュ・スロー音楽集をまとめた。

ナサニエルはアソル公爵の後援を得て、ロンドンでときおり演奏会を行なった。ナサニエルの兄弟、ジョンとアンドルーはロンドンで音楽出版社を営み、弟のウィリアムとともにニールの音楽集出版に貢献した。

ニール・ガウのこの肖像画はサー・ヘンリー・レイバーンによって描かれたもので、正直で素直な性格が表れている。ニールとロバート・バーンズが出合った年に制作された。

1952 年 3 月 14 日

スコットランドでテレビ放送が開始された日である。この日英国全土でテレビ放送が開始され、スコットランドではカーク・オショツツのテレビ塔から午後 7 時 30 分に電波が発せられ、新聞はスコットランドがいかに静かになったかを報じている。グラスゴーでは電気店のショーウィンドウに群衆が集まり、テレビ画面を見つめた。国中で観客が押し合いへし合いし、幸運にも受像機を持っている親戚がいれば、そこに出かけた。パース郡の療養所では患者と看護師がともにテレビを見ていた。そのときのスコットランドのテレビ受信契約数は 2730 であった。



そのときのラジオ・テレビ雑誌を見ると、番組のハイライトはティム・ライトと彼のバンドの演奏による RSCDS のパフォーマンスだったことがわかる。

このときは信じられないほど緊張して始まった。BBC 総ディレクターの夢が実現するまでに 4 年もの歳月を要したのである。グラスゴー市長はカラー化を望んでいたが、その時期にいたっておらず、スコットランドがカラー放送となったのは 17 年後の 1969 年であった。最初に画面に現れたのは、有名なアナウンサーのメリー・マルカム (ビクトリア朝の女優リー・ラントリーの孫娘) で、彼女はスコットランドのチーフ・アナウンサーを紹介した。

ついで、エジンバラ市長の祝辞、祈り、そのあとがダンサーたちの番であった。

ダンシングはエジンバラ、クイーン・ストリートのスタジオ 1 からの生放送で、エジンバラ・ブランチのデモンストレーション・チームの選抜ダンサーによるものだった。

10 分間のプログラムで踊られたのは、*The Duke and Duchess of Edinburgh* (当時は RSCDS のダンスでなかった) と *Rouken Glen* (マクナブ・ダンス) のメドレーであった。

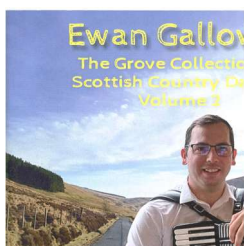
ダンサーたちは「なめらかで堂々としたリズム、古い優雅さを表現した」との評であった。

[NHK によるテレビ放送開始は 1953 年 2 月 1 日、日比谷公会堂からの「今週の明星」中継 (笠置シズ子の『買物ブギ』など) と日本舞踊であった。日本全体で受信契約数は約 900]。

The Grove Collection of Scottish Country Dances Volume 2 … CD のみ

By Ewan Galloway

- |  |                                     |                                 |
|--|-------------------------------------|---------------------------------|
| 1. Wirral in Gladenbach (4x32R SQ)     | 7. Rest and Be Thankful (8x32R)     | 13. Kyleside Belvedere (4x40S)  |
| 2. Tattie Bogle (8x32J)                | 8. Vintage Simon (5x32J)            | 14. Angus MacLeod (2x64R)       |
| 3. Invercauld's Reel (8x32S)           | 9. Magic of Mary Ross (3x32S)       | 15. Welcome to Dufftown (8x32J) |
| 4. Jill's Purple Party (8x32R) *       | 10. Burnieboozle (8x32R)            | 16. Bonnie Stronshiray (8x32S)  |
| 5. The Weathercock (4x32J)             | 11. The Elusive Muse (3x32J)        | 17. Across the Waves (4x32R) *  |
| 6. Peter Knight's Strathspey (3x32S) * | 12. The Haggis Hunters (64S+64R SQ) | 18. Warm up/Cool down March     |
- \*CD 解説カードにダンス説明書つき



2020年6月にVolume 1を紹介したユーアン・ガロウェイの第2作である。ユーアンは1人で諸楽器を演奏し、多重録音によってCDを制作する、『楽団ひとり』の才人である。アルバム・タイトルの

グローブ Grove は、彼の録音スタジオがある、スコットランド南西部ダンフリーズ近郊の村の名前にちなんでいる。アルバムの内容は1755年の Invercauld's Reel (Book 11)から2020年の Jill's Purple Party まで、いままで録音がなかったか、しばらく踊られていないダンスでまとめた、とある。前作と同じく、しっかりしたリズムであり、軽快でど

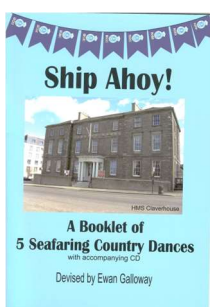
のトラックも楽しく踊れる。ストラスペイ6曲中、エアは Magic of Mary Ross だけで、のこりはトラディショナル・スタイルである。Bonnie Stronshiray はナン・メインが作ったオリジナル・チューンを使っている。ダンシングにおいてはまったく問題のない演奏であるが、フィドルが入っていないためかやや潤い、遊びに欠け、18トラックを一挙に聞くといささか疲れる。

なじみのないダンスばかりで、踊り方がわからないという方がおられると思う。だが、ほとんどのダンスはインターネット、www.strathspey.org の SCD Database でダイヤグラムが得られる。トリッキーなダンスはないので、このCD、皆さんのクラスは十分ダンシングを楽しめると思う。★★★【注文略号：ユーアン・ガロウェイCD】

Ship Ahoy! … CD つきブックレット

By Ewan Galloway

- |                             |                             |                            |
|-----------------------------|-----------------------------|----------------------------|
| 1. Claverhouse Rant (4x32R) | 3. Trinity Launch (4x32S)   | 5. Ready Aye Ready (5x32S) |
| 2. Get Knotted (3x32J)      | 4. Across the Waves (4x32R) |                            |



これもユーアン・ガロウェイの制作によるもので、ここで彼は作曲、演奏に加え、なんとダンスも創作している。ahoy アホイは「おーい！」の意味で、おもに海洋で使われることば。ユーアンは兄の影響を受けて Sea Cadets シー・カデッツ (海洋少年団) に入団し、今はその指導者で英海

軍予備役中尉でもある。このブックレット収益の1割がエジンバラ・トリニティ海洋少年団に贈られるという。

音楽は上記のCDと同じ出来栄で文句なしである。ユーアンは、ダンスの考案はそれほどの経験がないようで、まあ月並みの動きである。Ready Aye Ready (いつでも出動可の意味) がいくらか面白いが、このダンスは制作協力者のサラ・ヒュームとジュディ・グリムジーが作っている。ダンスはすべてダイヤグラムつきである。★★【注文略号：シップ・アホイ・ブック】

Fields of Gold … ブックのみ

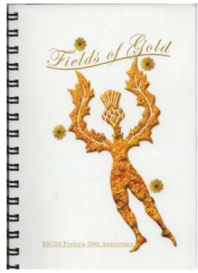
By RSCDS Pretoria Branch

20 in 2020 (32J – 3C/3C) ほかに全 51 ダンス (ダンス名略)

南アフリカ、プレトリア・ブランチ発行のダンス・ブック。ジグ 17 曲・リール 14 曲・ストラスペイ 18 曲・

メトレー2曲、合計51のダンスが載っており (タイトルを全部書くと紙面が不足する)、A5判・115ページ・180グラム・厚さは1cmもある。プレトリアにおけるSCDグループの誕生から50年、ブランチとなって40年を記





念するダンス・ブックで、そのため 50+1 のダンス数にしたとも考えられるが、多ければいいってもんじゃないだろ！と言いたくなるブックである。また、3 カップルセット・3 カップルダンスが 14 曲もある。51 ダンスのタイトル、そしてダイヤグラムは、ユーアン・ガロウェイ CD と同じくインター

ネットの SCD Database でブック名を入力すれば得られる。

ダンスのほとんどはケープタウンのアンドルー・ホジソンとヘザー・ホジソン夫妻、プレトリアのウーター・ジョーバート Wouter Joubert (Book 44 の Knotwork、Book 49 の The First Rain of Spring の作者) が作っている。20 in 2020 (3x32J) は 2020 年に 20 歳になったステファン・ノーデ青年に贈られたもの。5000 (5x32R) は 5 千のダイヤグラム作成を記念してキース・ローズ自らが作った 5C ダンスである。初老のキースの写真が添えられている。African Monarch (4x32S) は旅する蝶にちなんだもので、踊るのは 1st C と 4th C だけ、2nd C と 3rd C は突っ立ったままという踊り。Blue Sky, Yellow Sun

(4x32S) はロシアによるウクライナ侵攻直後にマロー・ランドンが作った。ウクライナ国旗の色をタイトルにしている。I Believe in a Better Tomorrow (2x32S+2x32R) はコロナ下にあつて、明日はもっといい日になるよ、というタイトルのメドレー。Platinum Reflections (3x40J) はエリザベス女王のプラチナ・ジュビリーを祝したジグ。Robb Quint of Thousand Oaks (3x40J) のサウザンド・オークスはカリフォルニア州の地名。When Harry Wed Meghan (8x32J) は 2018 年のヘンリー王子とメーガンさんの結婚を祝して作られた。

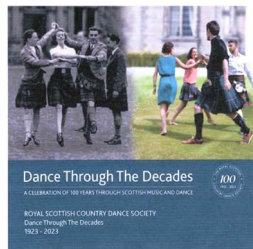
各ページにダンスに関連する写真、イラストがあり、シューベルトの「水の上で歌う」の部分楽譜、菜の花やデージーの写真などが載っていて、背景理解の助けになる。

全ダンスにオリジナル・チューンがあり、ほとんどはウーター・ジョーバートが作曲している。

どのダンスも踊りたくなるような完成度で、四ツ星をつけたいところだが、いかんせんダンス数が多すぎ、付随する CD 発売の見込みはないし、使っている字体も 8 ポイントで小さくて読みにくいことから★★★〔注文略号：プレトリア・ブック〕

## Dance through the Decades … CD のみ By Gordon Shand and His Scottish Band

RSCDS の新盤である。本紙 2 ページの中核 10 ダンス音楽の CD で、旧来の録音盤から該当曲を抜き出して 1 枚にまとめたコンピレーション・アルバムかと思ったらそうではなく、ゴードン・



シャンド楽団による新録音盤である。RSCDS 本部は IT の進歩と在庫削減のため、品切れとなった CD は再版せずに、iTune、Google、Spotify などのネットワークからダウンロードしろという方針であり、たとえば The Old Man of Storr (Book 40 CD に含まれている) の CD は入手困難である。よって、中核 10 ダンスの練習にこの CD は適していると思う。ただしこの CD、2 月 19 日のウィンタースクール初日からリリースされるので、私はどんな演奏なのか、代替チューンの内容、演奏速度などわかっていない。ゴードン・シャンド、ジム・リンジー、ロバート・メニーズ、ダンカン・フィンドリー、グレアム・ベリー、ゴードン・スミスという卓越した演奏者ば

かりなので、演奏内容は納得できるものと思う。中核 10 ダンス音楽のほかにマーチなどのリスニング音楽が収録されており、6 ページの小冊子も付いているという。RSCDS 100 年記念盤として入手してよいと思うが、手たちの CD で対応可能という方もおられるので★★★〔注文略号：デケーズ・ダンス CD〕

\* \* \* \* \*

ご注文は注文略号、数量、金額を明記のうえ、郵便振替 00240-0-63517 東京ブランチでお申し込みください (送料込み)。

ユーアン・ガロウェイ CD	¥3,000
シップ・アホイ・ブック	¥2,400
プレトリア・ブック	¥2,600
デケーズ・ダンス CD	¥3,000

ショップ担当 大野宏子 042-576-9587

締切り 3 月 15 日 (水)

お渡し予定 4 月中旬

## Unit 1 試験

10 月 24 日 (火) 東京にて行われます。受験希望の方は、6 月末までにセクレタリにご連絡ください。

## 次号ブランチレターは 5 月末

次号ブランチレター No. 122 は 5 月末に発行予定です。5 月・6 月のブランチ・クラスの日取りは 4 月にハガキでご連絡します。